



秋葉
 繪
 本
 金石譚
 靈驗

3遠へ
 980
 2



選13
920
卷 2

本清

周水

秋葉 繪木金石譚前篇卷之二

猛丸暗夜刺大鯉脩

浪速朝

山田山家子戲編

月日守るる隙切約須臾も任ぢ光陰流水のどく去て星霜
 の移変疾し。扱も鍛冶滑包八家成火災のよめに焼ぬくより、猿
 の扁辺に扱に任ぢ取違。見我我子と。名成猛丸と称て生し
 天性美質と且骨組遅し。殊に健ふ成長多れ。夫婦も所生の
 慈愛て貧苦の中も何是。一々不何し。年重く猛丸早
 十七又よあり。智人よ時。一々十を悟り。洞達あり。されども又が
 産業と忌嫌ひ。その極戯も。小腕ふるび。巨木大石。毒
 てかを弑し。或六溪河小躍入。水煉を学び。或竹木。切く。鋸技を自

得たるあんどの更上森食と忘るれば。父母も幼のやど。或ハ叱り或ハ宥て練
 一うども。需用ひかれ。果ハ倦トさるべし。武士の胤ふれ。とどく。荒々
 た業成好ある。碌々。刀鍛治ふあえんより。ハ。武士ふあし。子孫の後業を
 計らん。とようめれ。とく。彼獅子の児。成漢。落して。強弱成試。な。ん。心の
 終。動止。さ。ら。と。其。後。ハ。唯。お。捨。て。其。行。条。成。を。眼。居。る。猛。凡。ハ。是。と。よ。れ
 更。と。遠。近。の。山。野。成。弛。回。ま。て。田。獵。川。狩。成。ふ。を。向。も。あり。野。飼。の。牛。馬。を
 跨。ま。く。近。回。る。時。も。あり。て。十。日。廿。日。の。間。家。居。ま。く。さ。る。更。度。々。小。及。び。ぬ
 然。も。維。が。ら。ふ。と。も。あ。り。山。際。の。畠。中。の。池。中。より。毎。夕。ハ。妖。物。出。く。作。物。を。踐
 荒。と。と。連。夜。あり。と。云。い。腕。立。成。好。む。看。者。ホ。渠。所。小。い。り。窺。へ。とも
 物。音。の。傳。り。は。戦。慄。して。逃。る。り。維。也。と。あ。り。者。も。あ。ら。ぬ。猛。凡。此。一。成

皆。て。盧。胡。ハ。賢。ま。く。猛。凡。更。と。の。と。魂。ハ。無。下。言。甲。斐。成。田。舎。猿
 とも。必。竟。其。物。執。理。の外。ハ。出。な。く。と。吾。今。夜。手。捕。ま。し。日。未。口。利
 者。ホ。鼻。罔。を。得。せん。と。人。少。も。結。成。只。一。人。件。の。池。の。辺。ま。り。繩。抄。手
 繰。て。帶。ま。せ。手。小。命。ハ。刺。殺。ん。と。小。合。口。の。鯉。口。ろ。ろ。げ。息。成。結。と。窺
 々。ハ。大。膽。も。と。不。敵。あり。たり。其。夜。ハ。殊。ハ。雲。立。強。だ。風。烈。く。吹。落。して
 折。々。小。雨。降。と。と。茲。彼。の。狐。火。且。燃。且。消。て。人。の。毛。孔。成。寒。く。し。り。深。山。辺
 の。猿。乃。色。且。啼。且。止。く。人。の。魂。を。消。せ。り。都。て。其。凄。冷。た。と。は。く。ハ。あ。く
 夜。ハ。衛。々。更。行。て。野。寺。の。鐘。三。更。成。報。と。折。り。も。俄。然。と。と。池。水。浪
 成。拳。岸。破。と。崖。へ。躍。上。る。物。あり。焉。羽。玉。の。團。あ。れ。ば。更。ハ。何。物。と。も。見。え。ん
 ぞ。と。い。へ。も。猛。凡。ハ。腕。を。と。り。今。や。能。く。ら。ま。り。と。窺。が。ふ。件。の。妖。物。わ。と



くと物音を母と島中へお入り入ぬ偵察とて猛丸は物音成るるに飛く
 王双手を廣げて組付お彼早くに抜猛丸五騎成瘡る絆強く支
 されども猛丸物もまだ尚組伏んと争て島畑の中成追周難あり捕
 て伏小刀拔く滅多突ふ三刀刺は妖物ハ苦み剛く猛丸成二回絆も
 飛し島中成躍り回る剛腸勇肝の猛丸尚も屈せは刀探取て走寄
 捕てお入り逆手突ふ幾刀とめ刺通とてさうもの妖物今ハひと
 弱果て動死得ぞ此時猛丸心成鎮て怪物の全身成探るるふふ
 一尾の大魚ありこれに頓て繩とくおりと縛り再度出来る物や有と
 窺ふ其後ハ絶く物音もあらず東山嶺の横雲きし夜ハおとくと明渡
 たり猛丸件の巨魚成死す何年経ともあらず大鯉の朱とて

死居りり。双ハ妖物ゆへハあざりきふその成多し身成勞せりり
 とお腹まじり小て何の為夜毎に畑成荒し小出るる小やと不審な
 かり鯉の血成池水とを洗ひまじり肩おけて家居小持りりを見
 者大い小孩死板も大なる鯉も何所も得りやと口をみまじり
 向小猛丸各もせと我家へお入り清包夫婦もお孩の例の殺生
 せと若くお小折りもせ更成ははて村中の者ハ心を更なり遠近の
 里人オとまじりり追々清包が家小集ひ鯉成かき驚嘆し何所を
 うかり大鯉成得しと向小猛丸件の趣成語り唯恨らハ妖怪変化
 わりさる更とて言纏るる衆人は始り畑成あざり小鯉ある成あ
 りる奥成成あざりり物音を怖て逃るり者ホダ憶病さよ

とて行更ふ不得せざる己が志の憶病に押隠し嘲笑を其黄面赤
 ぬがは波達と畑荒と者の有と空の隣歩行ふ得せざる膳の多そ
 さよく口續く五十歩百歩をい合ふ果互に論小皮多と鍼医の
 鈍齊といふ者くびく成押鎮是益を言聞くおさる更言んより此鯉成
 庖丁一と和睦の酒敗ん八如何の一人千成切流石鈍齊老此思惟社
 二葉あま酒に買あんと主羽の心如何やと向清包冷笑一吾ハ
 食せん爽快の望あふ進まず疾持ふると右も左もありと袖歩拂
 てふまそ是ハ辱しと入賜す賞味も免猛丸主のきり身と強く飲
 透ひ鯉成をりして鈍齊が好むら傾て庖丁一なる小鯉の腹中釣敷多
 有て羊朽るも有不朽ありやと菲成多く食し居る鈍齊是とて

掌成とと打吾始て鯉奥の畑成荒せ故成知ると小衆入不審其之何
 成りて知りると向小鈍齊曰別義小あは菲はく漬毒成解との能あり
 下官鍍鐵成下して着肉中小折残る可必を非の煮汁成飲むる
 小自然抜出る更一度も経る今是成以て考る小此鯉年古く池中小
 住む往々釣を吞臓腑成破痛む成患ひ畑小上アそ菲成食ひ
 あら非情の鱗魚く奇薬成知り小有るれも農人の菲成歩
 池水も洪ふとさる節散注る成何心あり食し自然其鍍毒も功發
 有成知り成覺り成彼池辺の畑小菲成作る否やと鼻のあまを
 ろうて語る小人の男成其如何も彼畑小菲成多く作まると小
 ぞ衣人鈍齊が説成感とく小靈有鯉成食せば身小黒し小人更も

ちりしを只中へ埋人の不如といひ俄に市中に穿ち埋む各口は成す
 しく退散しつゝ猛丸も鈍齋が論を奇しく辯じて我家へ入りつゝ是
 より猛丸が名近卿の震ひ後垂懼をた奇童なりと賞しつゝ猛丸は我
 慢心增長し人成りつゝ塵世のくろく稍中をいじ道唾口論小更純人を
 痛懲し自手ま立者なりと思考たり父母是れ患ひ中の中もたつ六男勝
 一の女もれを一日猛丸成座辺に招ちて色方まをい無頼の見はちとろ
 力量小慢し己成高慢人成直下し物数ありぬ非力累若の愚民成ち
 ころ。我の顔小そのころを西悪く小姑の産業成嫌ひ武技を嗜成ま
 頼母した更思ひころかち小捨置只唯匹夫の勇成准成致湯殘忍成
 拳動の增長もハ逆も真の武士もあるべし更思もより今日よりハ

一寸も他へ出さず死を心成改て又の業成学び父母の口腹成養しを
 要す汝の力量を自負されども我目より見る間唯小兒の戯れ人成
 撃痛るがに死に懲さるがよむ試とて削る有る竹枝の太さ一握なる
 其の成追取猛丸が脊を續さぬ小よりくと撃手のゆゑ其後手成とて付
 の竹成引きつゝ滅離々々と音々々拉割ぬ頼り猛丸が身成是れ
 強く縛り脊門の外へ提出心成改めむ其縛解得をえんと荒ら
 ち小戸成引きつゝ入小々々猛丸痛く撃れ且縛られて戸外へ傳えつゝ
 母の怪力成知憫果るが大方に撃手し脊骨も砕けつゝ疼痛
 忍りつゝ心成恨み憤り左に拉竹の縛成抜何回もあつて遂
 電たりつゝ呼往古の白偷母の技もあれ其力の養下成りかして

とゆひの猛丸ハ母ハ力の壯あるが憤り多く又母ヲ捨てて一更ハ般小一
心黒白の違り行末如何ある者不成就人いと覺束ふ一斯く清
包夫婦ハ猛丸が悔解成待ハ絶て音もせざりて其母を立出さずんば
桶の輪ろ脱しごとく縛り竹索のそ有る主ハ空蟬て居るがれど大
い小鷲丸遠近ヲ尋捜せども更不行齋あれれれを詮まへあて捨
扱衣初懸相多賀嶋條
置ける

却鏡貧民窮作が娘小紫ハ男子成生あらず育る更くくれむ力あり路頭
小捨尚も伯母や舞ふ在るふ六翌年伯母の賤女温疫といふ病りて
一朝の露と消失しむ小紫ハ悲愁大なるあはれ頼む木の下の雨も
心地急だ窮作成呼迎へ如何せん高儀とて小窮作も深く悲し

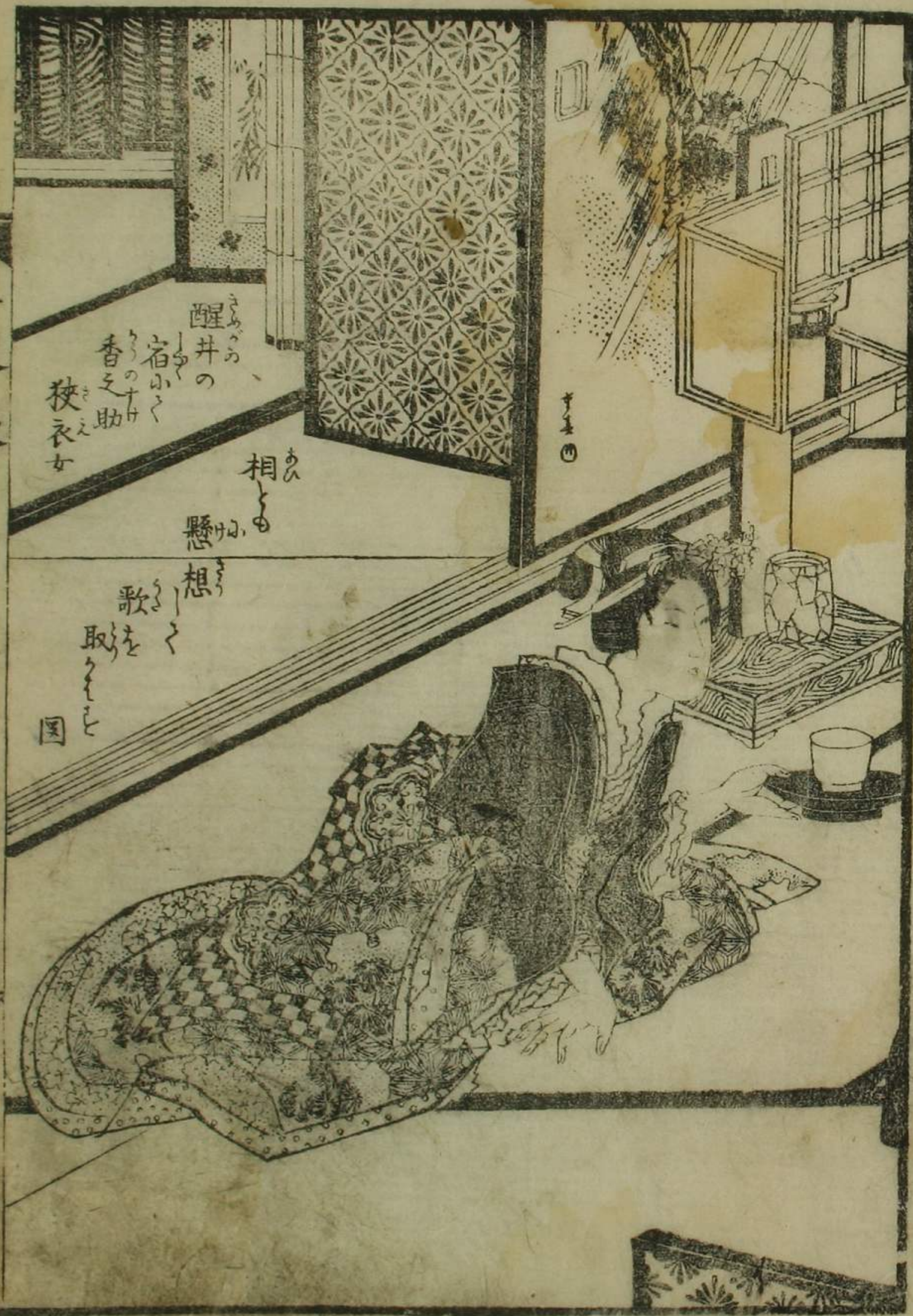
々々々斯く有果づるふあはれむ泣々野外に送る茶火の煙と
忘番物の鳥婆作の七女と小紫成引連猿投村へ入り潜み隠し養生ふ一
年立する小窮作又病不うりて死ぬ小紫ハ重なる歎き身の薄命成悲し
尼法師もあはれやと問る成隣家の者木撞々涼め江列木林山辺よ
薄縁の者有れども窮作が家財成賣拂ひ小紫鳥婆作とも江列
へ引しめたり然るふ世の縁も捨る神あれも拾神ありといふ隣
人の世結まると有婆作が番場の宿の近村ある瑞徳寺に禪院へ遺ハ
しと出家させ小紫ハすこし媒成あらず醒井の宿ある辻旅屋阿辺屋
橋内といくる者妻成先立れを其が後妻よと嫁はる茲はあつと小紫ハ
衛安堵の思成あし家内の雜成信々取賄ひ橋内は事る

貞実まことの召使者めいしやは憐あはれと懐なつくれば上下じやうげよく睦むつび和やわし。播内はなうちも尾おを
 びしあひく珠たま成得える心地こころは丈夫あつちの親おやと深く其次つぎの玉たまのごとく
 女子むすめ成生なま後ご悦よろこばし限かぎあり名な成な袂たもと衣えと称なづけて育そだつる小せう成せい長ちやうとふふあつた
 姿すがた貌まういと清きよ酒しゆよく肌かわは素す雪ゆきの色いろ成な隠かくし面おもては桃もも李なしの媚こび成な具ぐは心こころも
 まる優やさみ婉よわし萬よろづの女むすめ賢さとしくて裁縫さいほう續つづ書かの業わざハハは更さらあり香かう茶ちやの
 道みち吹ふ彈ひの技わざ学まなぶと幾いく于よあつて堪た能えまのれわ又また母ははハ益えきを富とみ愛あいて
 萬よろづの道みち成な学まなぶやあつた何なんも年月としげ推お移うつす袂たもと衣え女むすめ早はや二ふた八はちの春はる成な迎むか
 へし風姿ふうさ艶あは麗れ小せう衫かみびとのひたれむ性しやうと返かへすの旅たび客きやく袂たもと衣えは美うつく貌しやうは眼まなこ
 成な奪うばりれがらあ彼手かのて越この千壽せんじゆ池い田での侍ざむらひ従じゆも是こゝハ争あ勝かるべしと
 播内はなうちが方かた小せう宿しゆく成なりむむる者もの多おほくあり家いへ自みづか然か富とみ栄えへ家いへ宅たく成な建た建た廣ひろ

け莊さや飾かざりは醒さ井いの彈たま小せうあふぶものな旅たび籠かご屋やとあり小せう時とき小せう濱はま
 名の城主しやうしゆ槻き本もと英えい州しゆハ京きやう都とニ在あり番ばんせられ多おほく所ところ旁わきニ添そりハ脚あし暇ひまむらりて
 飯い国こくノ名な代しろく子息こしやく播は之の助すけ成な上かみ京きやうさせし隨したが逐しゆ輩ばいハ長ちやう臣しん多おほ賀が嶋じまガ男おとこ
 香かう之の助すけ成な幾いく島しま兵へい藤ふじ伊い沢たく丹たん平へい岩いわ淵ふち平へい馬まあんと其その外ほかハ勢せい數すう多おほ濱はま名な成な
 て街まち道みち筋すぢ成な京きやう都とへとし醒さ井い小せう着ちやく阿あ部ぶ屋やが方かた小せう宿しゆく成なりむ播内はなうちハ妻つま
 小せう柴しばガ又また窮きゆう作さく槻き本もと家いへの恩おん惠ゑ成な衆しゆりも更さら成な平へい日にち物もの結むす小せう女むすめ居いきも萬よろづ
 更さら小せう心こころ瓜うり附つく奔はな走そうし配膳はいぜん茶ちや菓かの給たま仕しハ愛あい女むすめ袂たもと衣えハ命いのちも如何いかある
 大名だいめいの止と宿しゆく有あるも袂たもと衣え成な給たま仕しハ出でせ更さら成なあつた小せう此こゝ更さら成なあつたも他ほかの
 心こころは思おもひ思おもひ前まへ小せうりし聰明ていめい令れい利りの袂たもと衣え成なれハ容よう儀ぎ正ただしく居い居い
 ありやうふとのせしハ播は之の助すけも渠みちガ風姿ふうさの艶あは麗れありも其その舉あ動どうの賢さとしくあり

瓜愛殊親しく座右小近着酸あんど取せざる狭衣六面くかけ給仕し
 て在るるが熟香之助が男は死に死に面六両玉のどく唇真朱が合も眼
 中清くく彌子假が媚がふ総角艶やうやく王恭が美が奪六年二八
 う二九うぬ月の桂の男ふ人情右がめてあぶぐく言結動作せく
 物静るるふ思くど面が赤く春の心頻動れた天暗女の身く人者く
 ふ人瓜吾佛くわして傳事く人社を生る甲斐あれと思といどもま
 踐初ぬ道芝の崩出のく何くも岩手の山ろ岩擲搦良小火がくをり
 むく只管香之助が方目瓜運るれで香之助も始より狭衣が佳色小心と死
 む死く渠敷度我方目送く情が會を笑が作るふと益情心動死目
 く眼中小媚が合もく人く守る小思心瓜通く然る小其夜初更の願

雨降出い漸々大雨とあり羽音も尚降止む彈の者家々の門よま
 前路の川も水増えれわ川止いと觸れく柳本主従も是も仍く其日
 も阿部屋小逗魚一雨霽川の閑衣を相待く香之助は是や月下老翁の赤丸
 繩瓜結るるあつらとして日來ハ忠勤怠りく萬慎深れ性も流石若氣乃
 思慮浅く意暮の闇小踏迷ひて何卒言よん便もかか心も賦里間を付
 へいもあやゆめ入目の閑寺いとまぐ更小其便を得がれむ暗小扇子小歌を
 書付折紙凡て狭衣が袂へ投入り後衣も意も其人の扇然袖へかけ入
 何うかちがれといと嬉顔紅無かか潜も取出して閑たると小拙くぬ
 かくく岩根の池みせくみの深たふけくもくしぬぬ
 と書付く板彼君も憎くも思ぬもや心抱くく小嬉くく



月もせず守り守り多うが。船も香色の紙のうらふ

降雨のさけぬまをちかづくもわれも成るのむらりともふ

と書付其夜柔成運りて香之助が膝の下より玉。後成も刃を

逃りより香之助手早くして袖を押隠し。人目成忍び件の歌成吟

いふ存念とぞふ達しぬと胸もろくわたり悦ぬされも如何と忍行を

たしく只管思煩ひわれど。糸の岩搗け渡す神成更あり。一言主の一言

つひつと便あり。其後ハはやく月も合を思ひてハいとせらく。蓋のや

と睡も狭衣が面影幻小遮りて。眼も閉る心眠らど。とくハ忍びた

便宜もやと起してれども其人の国門を其所とも知れど。迂潤めのゆ

く。是も寐してとる。程小早明告る鐘の音鳥の色も啼ましく夜も

仄々と白きより。川止用ぬと觸傳色ゆれど。家内の男女起出朝食

の儲小強だま播た之助く。明輩の者も起出。旅装成纏るゆ。香

之助も止更成得む。俱朝の志も成あり。主人小引副立出る。けり

思ふ泣明せ。狭衣が敷ハやる方あり。胸の氷も今朝も。千々小碎る泪

の玉けお。果ぬ縁成恨。洞あが。小見送れど。香之助も胸塞。千筋

の糸小引戻さ。心地せり。と。詮もなきて心成属。終小別。ちま

倭臣等導至不正條

斯て觀本播た之助ハ路次故障あり。京着。高倉通六角の邸。入。二日

許休足。室町殿へ出仕。又が名代。在番仕。言上。是

より。満日小出勤。君の御用成承り。兩月あり。成。過。然。ふ

此度播磨之助の隨逐せし幾島伊沢岩淵の三人を兼て王家の伯
 叔祐明齊が逆意小加膽し折もある王家が斃しと祐明が所有
 との己も過去の食録が貪らんと心小巧けれ巧言令色が以
 ち播磨之助小阿王に面小忠實が飾りたるふぞ若冠の播磨之助
 其奸謀が情も難再得者小思ひ此度の上京も又小願ひ右
 三人成呂具せり多賀島伊織ハ三人が心術が奸王男香之助
 小蜜意が言合め態と播磨之助小扈從させり案のて右の三
 士潜小高議し播磨之助が此度の在京を幸小放蕩奢移を勸
 め過戒引出させき切腹せめ尚其禍が王家小及さんと謀るふ
 程あり五月も成れぬ究竟の時節到来せりとて或日三士播磨

之助小向ひ君又君の御名代として初く京都御在番より早く
 月夜経るもまご京地の名所旧跡がも一覽ありしを御勤仕の
 と心を勞しむひあむ御患病を幾しふ會し明日ハ非番小ありせり人
 ら御爵散の為洛東の勝地とも一覽ありしを勸る播磨之助も此
 心ひたふありされど又の名代なれど萬更慎らむとて黙止せし今彼亦
 が勸る約ふと心動死なす及し名所旧跡一見せし人も本意あり余
 忍びず小東山の神社佛閣小踏あられ二應管領家内意が通せ
 ざんむ後日乃議論も憚りぬ汝達に針らひいと命とるあど三士ハ任
 せぬしぬと心小笑其議ハ些も御心を勞しぬ臣亦良小針らひしむる
 明朝疾出りひく東山巡覽ありし其の次名小高死守治の堂持も

覽せ其ホも久く音小の望いへも動仕の違ふれむ未_レ宇治小遊むる
 遺憾小おの侍りぬ當年ハ殊更_ニ 螢澤ありし又得_レたは河ふいと其
 佳景風流の趣_ハ 巧小結々れむ播_レ之助ハ渠ホ深_ク巧有_レべしハ
 ち_レ名_ヲあ_レ免路の好景さそあ_レては意_ハ翌日未明より用意
 成_ル忍_ビの物結_ル大勢具_セも如何_ト伊澤幾島岩瀨多賀嶋
 四人と草履取_ル篤島伍平_ハ加_ヘ主徒六人各編笠_ハ面_ハ陰_ハ洛東の勝地
 祇園清水_ハ地_ハ續の名所_ト見_ル巡_ルそれより播_レ之助_ハ駕_ハ兼
 道の遠_ク行_ハ程_ハ邊_ハ邊_ハ頃_ハ宇治の若葉屋_ニ茶亭_ハ小着_ハぬぬ
 亭主_ハ命_ハと_シ船_ハ綱_ハ酒_ハ看_ハ成_ルと_シ頃_ハ主徒_ハ兼_ハ移_レれ_ル船_ハ子_ハ早
 く水_ハ掉_ハ揚_ル岸_ハ漕_ハ放_ル川_ハの上下_ハ静_ハ小_ハ道_ハ遙_ク播_レ之助_ハ伊_ハ沢

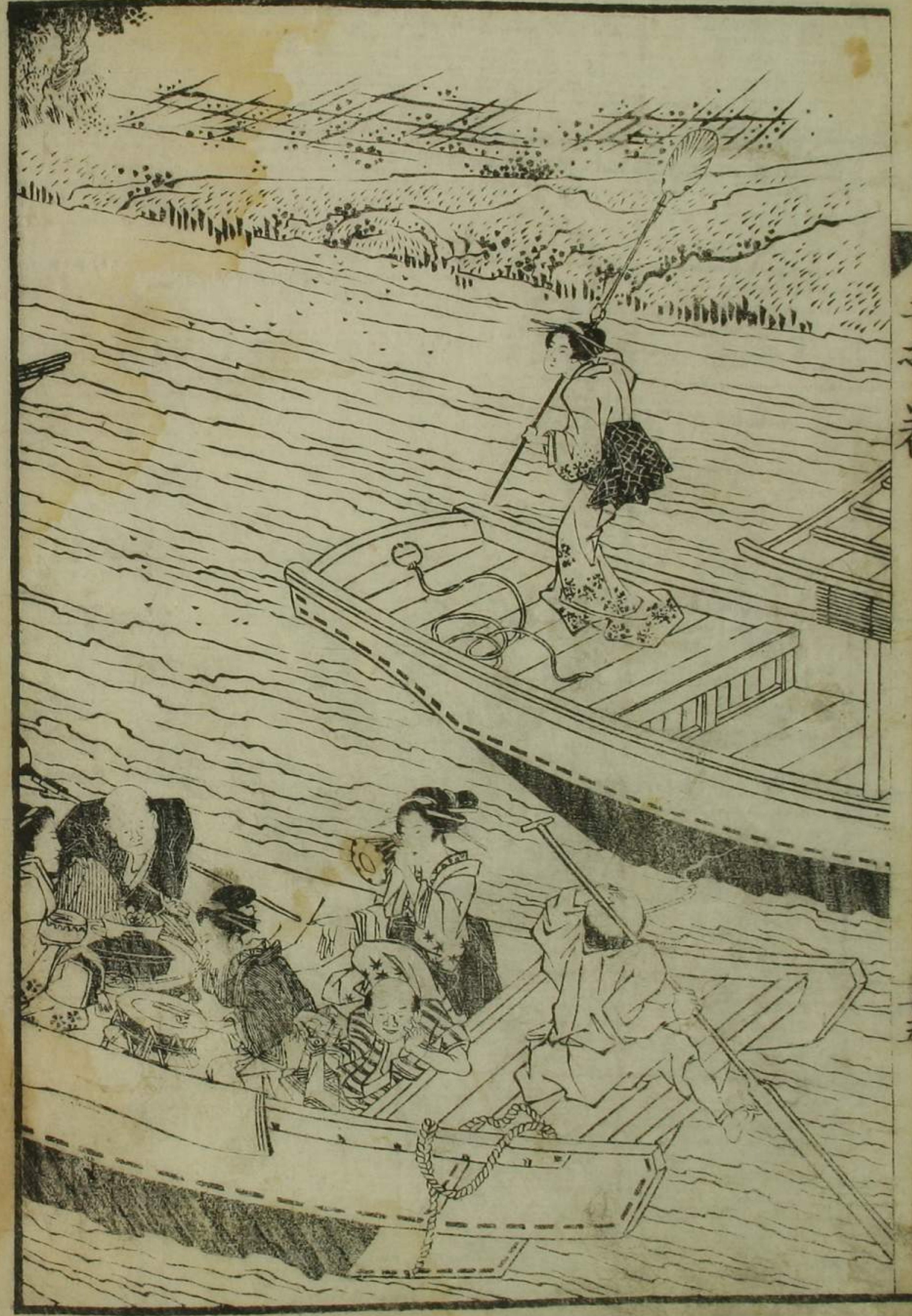
水_ハ対_シ酒_ハ宴_ハ促_ル樂_ハ與_ハ遠_ク近_ク眺_ハ望_ハ山_ハの_ハと_シ公_ハ川
 流_ハの_ハと_シ勝_ハて_ハ面_ハ白_ハ都_ハ鄙_ハの_ハ男_ハ女_ハ茲_ハ小_ハ集_ハ陸_ハの_ハ茶_ハ亭_ハが_ハ床_ハ九_ハ小_ハ團_ハ坐
 酒_ハ酌_ハく_ハく_ハも_ハ又_ハゆ_レれ_ル船_ハ小_ハ兼_ハく_ハ糸_ハ竹_ハあ_レく_ハ唱_ハ連_ハは_レは_レし
 登_リ下_リも_ハ下_リも_ハ長_ク柄_ハの_ハ團_ハと_シ螢_ハ追_ハも_ハあ_レれ_ル水_ハを_ハ手_ハく_ハ螢_ハを
 呼_ハも_ハ岸_ハ根_ハ小_ハ集_ハを_ハ川_ハ瀬_ハ小_ハ祀_ハ四_ハる_ハ基_ハ虫_ハの_ハ影_ハ散_ハ満_ハく_ハ且_ハ散_ハ且_ハ集_ハり
 地_ハ青_ハ貝_ハが_ハ時_ハが_ハく_ハく_ハ六_ハ細_ハ玉_ハが_ハ降_ハが_ハく_ハ是_ハや_ハ免_ハ道_ハの_ハ軍_ハ合_ハ戦_ハと_シ成_ハへ
 治_ハ承_ハの_ハ隻_ハ小_ハ田_ハ原_ハ忠_ハ綱_ハ此_ハ所_ハが_ハ渡_ハく_ハ勲_ハ功_ハが_ハ頭_ハ一_ハ壽_ハ永_ハの_ハ春_ハは_レ佐_ハ々
 木_ハ梶_ハ原_ハ先_ハ近_ハが_ハ年_ハひ_ハ名_ハが_ハ止_ハり_ハぬ_ハ夫_ハハ_ハ乱_ハま_ハし_ハ世_ハの_ハ勇_ハ者_ハの_ハ切_ハ是_ハハ_ハ治_ハり
 君_ハが_ハ世_ハの_ハ餘_ハ澤_ハや_ハ斯_ハ心_ハ長_ハ閑_ハ小_ハ勤_ハ仕_ハの_ハ爵_ハが_ハ慰_ハる_ハ吏_ハの_ハ面_ハ白_ハさ_ハよ_ハ播_レ
 之_ハ助_ハ殆_ハど_ハ入_ハ真_ハく_ハち_ハり_ハ盃_ハを_ハ重_ハる_ハ程_ハ酒_ハ氣_ハ十_ハ分_ハ小_ハ聞_ハく_ハ大_ハの_ハ酩_ハ酩_ハ醒

一々ふ風上り薫物の白ひ都都と。殊は花柳小粧いさう妓女十人并
 乗らる船一艘漕来。此方の船らう漕止三絃胡弓笛鼓をんど成す
 囉し。色あやめれて唱ひさゆれ々。此船中の女は皆都嶋原の嫖子。伊
 次岩瀧ホくく内意を言合此所へ来し。播大之助、私不正小姦人と巧
 かりゆぞ有々。岩瀧平馬さあぬ躰らう主小向ひ。彼御覽、渠船八都の
 榎女どもと刃さる。殊小花女なる客姿あつくい。客人と覚れ男のあは
 不審小侍王戯れ小此船。彼所へ漕寄。血こり刃なりやとい。播大之
 助ハ耽酔く前後の思慮も。是ハ一奥あり疾漕よせり。あつせと令
 ころ。成田賀島香之助主の袖を扣へ。御座奥とハやぶる忍の御榎船小女
 船小近付むらん。甚ど御慎み死に似侍り。只速小漕去て御飯館

成促りくと棟事。成伊次ホハ少ぬ。鉢中く船子小命に。彼船へ漕寄。せ伊
 次幾島色成等。我徒が船。男并中くと淋。れは。其船の色ある君達
 にく。乗らる羨し。よ。客人ハ何地行ひん。昔く。御盃賜らるや
 とく。嫖子ども歩や笑。是方ハ客人とも侍らる。女并の船持。せいと
 奥あり思侍。ハ男君の。御船小遭進。せ。疾御王盃賜。ら。と思え
 け。無礼ありとさげ。い。更やとい。侍りぬ。厭むら。先脚盃賜ら
 くと世小押。く。中。宜。れ。か。り。の。言。合。巧。も。多。さ。知。り。て。播
 大之助。い。奥あり。更。思。ひ。田舎人の盃。都。人。進。せ。ハ。嗚。呼。る。れ。と。乞。ふ
 成。辞。人。も。奥。ひ。れ。さ。が。り。し。進。盃。ら。上。さ。り。久。し。も。何。も。嬉。し。く。一人の
 嫖子。押。頂。て。下。と。受。手。并。り。て。川。水。小。盃。成。濯。が。播。大。之。助。小。一。度。り。ぬ

是を幼くして五小きいけされ此強つ強られ果此方へ去彼方へ去男
 女も混し。嫖子ホラ三味を彈鼓に調へ真火とて笑成献下媚成
 奏し々。其が中や。唐衣とて。鳥原小名主。佳人あり。花成敷成
 月成唾貌。これ。幾島無く。渠頼。如何ゆめて播成之助成色道。誘
 るい道。言合。定て。は。猛者。心危。居。今其人と。れ。年。齡。廿二。覚。白面。秀目。衣紋。け。室町。様
 乃。風流。を。盡。物の言。ま。立。居。舉。動。も。自然。威。猛。故。由。有
 緒。侯。の。若。殿。と。ハ。同。れ。と。多。れ。好。男子。多。れ。唐。衣。心。小。悦。び。寫。古。成。翻。
 て。親。睦。び。播。成。之。助。も。酒。小。公。醉。と。唐。衣。く。美。貌。を
 愛。悦。く。渠。膝。成。倚。物。と。戯。て。余。念。も。れ。味。成。侍。臣。ホ。計。略

己小成就と點頭合。折しも廿日亥中の月皎々と朝日山の峯小輝れ出
 る。今。螢。の。影。も。月。乃。光。お。け。を。さ。れ。ぬ。船。楫。是。迄。小。り。若。葉。屋。が。階。上
 小。登。り。月。を。賞。く。今。盞。酌。は。や。と。勸。む。酒。色。の。為。小。心。傷。く。播
 成。之。助。其。ハ。よ。め。り。と。浮。き。と。香。之。助。ハ。宵。より。一。滴。の。酒。成。も。飲。ぶ。播。成
 之。助。身。成。守。護。一。居。々。が。伊。沢。本。が。主。君。小。溜。酒。成。勸。る。成。ん。と。
 父。伊。織。が。先。見。果。と。符。合。せ。り。と。嗟。歎。色。を。正。し。御。入。奥。ハ。さ。か
 吏。小。い。も。大。殿。の。御。名。代。と。て。御。在。京。有。御。身。の。賤。成。傾。城。遊。女。を
 親。者。の。溜。酒。成。荒。と。と。吏。御。慎。む。似。と。り。今。渠。ホ。御。り
 ま。り。疾。京。都。へ。飯。ら。せ。め。色。成。正。し。練。れ。播。成。之。助。不。奥。氣
 小。然。ハ。汝。獲。平。成。呂。具。一。六。角。の。邸。へ。飯。里。裏。成。け。せ。羊。途。す。て。迎。小



来もく命いのちに。香之助大おほに疎とほれた。今いま既すでに二更ふたつき過すぎりし。四里よちりも余あまり行ゆ
 程ほどに往ゆ反かへりし。短ひさ夜よの明あけ果たまる。八はち治ぢ定ぢやうなりし。ととももいいふふ主しゆ
 命いのちをを更あらた能あたりし。ととももいいふふ免めん首しゆて沈ちん吟ぎんし。ととももいいふふ播は大た之し助すけ氣け色しき成なり損とんし。何なに
 故ゆゑ猶なほ豫よめり。ととももいいふふ疾はや々々立たち。ととももいいふふ急いそがららふふ己おのれ更あらたと得えむ。其その場ばを退ひし。
 室むろに護ご平へい然ぜんととももいいふふ汝なんぢ急いそだ。都みやこに立たち。飯いひ里り御ご迎むかひの用もち息いきし。ととももいいふふ来きれよ。某たれ
 八や他た所ところああらら主しゆ君ぎみを守まも護ごし。ととももいいふふととももいいふふ護ご平へいも香か之し助すけが若わ葉は冠かん
 遠とほくく慮り成なり感かんし。承うけりし。ととももいいふふ都みやこに立たち。飯いひ里り香か之し助すけ、若わ葉は屋や
 の辺へに身みを忍しのび。他た所ところああらら守まも護ごし。ととももいいふふ伊い織ぢが子こををり。ととももいいふふ板いた播は大た
 又また助すけ八はち侍しやう人にんホほみ。ととももいいふふ唐たう衣いが手て成なり推おし。ととももいいふふ若わ葉は屋やに樓たう小せう登のぼり。ととももいいふふ
 頓とんととももいいふふ席せき中ちゆう白はく昼ちゆうののととももいいふふ燈とう成なり點てんし。ととももいいふふ山さん海かい佳け者しや成なり盛せい陳ちん。又また大たに酒しゆ毒どくをを但た

一いち唱なうひひささりりたた各かく派はいののととももいいふふ乱らん醉すいし。ととももいいふふ播は大た之し助すけも醉すいふ。ととももいいふふ不堪たふととももいいふふ唐たう衣い
 と俱ともに国くに門かどにに入いる。雲うん雨うの契せき成なりで結むすぶ。初はつめ。ととももいいふふ然しかる。ととももいいふふ短ひさ夜よののああらら早はやくも東とう
 山さんととももいいふふ群ぐん鳥ちゆう宿しゆく樹じゆ成なりととももいいふふ啼なげ。ととももいいふふ小せう鷲じゆたい。ととももいいふふ餘あま波なみハ惜おぼし。ととももいいふふ
 も世よの議ぎ論ろんを悼なげみ。ととももいいふふ杖しやうををかから。ととももいいふふ幾いく島しま伊い沢たく岩い洩せれ。ととももいいふふ杖しやうををかから。ととももいいふふ宇う治ぢ
 成なり立たち。ととももいいふふ唐たう衣いハ自みづか余あまの嫖ひやう女によホほととももいいふふ俱ともに遠とほく見み送おくり。ととももいいふふ再また奇き會かい成なり約やく
 一いち意い々々ととももいいふふ立たち。ととももいいふふ此こゝ時とき。ととももいいふふ香か之し助すけハ物もの陰かげに忍しのび。ととももいいふふ居ゐる。ととももいいふふ
 其その助すけが無な事じ立たち。飯いひ里りに立たち。ととももいいふふ安やすん。ととももいいふふ隠かくれ。ととももいいふふ行ゆく。ととももいいふふ都みやこ近ちか
 くある。ととももいいふふ頂ちやう迎むかひの典てん成なりけ。ととももいいふふ護ご平へいも。ととももいいふふ播は大た之し助すけハ是こゝに立たち。ととももいいふふ六む
 角かくの郵ゆうにに飯いひ里りととももいいふふ

信しん然ぜん欲よく暗あん主しゆ使し失しつ忠ちゆう士し條じょう
まをさすてあつらひしりまひまふ

三三三

去程小播六之助二度唐衣と枕席成文しより其移香を忘るの非番の
 日成考へ伊沢岩瀨亦成徒へ忍ひす小嶋原小到々々其賑ひ大方あり
 す。名小高丸出口の柳成尺屋邊と揚屋軒小さくれば妓樓軒成りて棟
 成連て艶曲絃歌家々小喧く花言巧語元々小つへとて往及嫖子が粧
 瑤瑁の揃并燈小輝く星光成奪ひ摺鉤繡の衣服夜目成驚し外八文
 字の高木履成歩を蓮成生ぶるくと疑りれ掻取裾の蘭麝の香ハ名香世
 界の天女々と成めりぬ仲居か肩小扶らぬ酔客々封成移りてさび
 酒泉小向久と罵り妓婦小手成携ゆる狂夫ハ三日此君ふんてとら
 くらりさびむ此思小令ハ金錢も瓦礫の思れ珠玉も土塊の思
 せられぬ播六之助此光景成乃く且驚れ且悦び想ち身の成

却し奢移の心生しと角屋入大樓小入數多の歌妓封間成り奇大ワイ
 妻成用た孟成回さく奥成戯れ醉成盡しと及彼唐衣と俱不消金帳
 中ハ采花の夢成を結る是より二度三度と通路の敷重ふるふさかひ
 互の契成増く今ハ唐絹小播六之助の外ハ他ハ客人小衣帯成解と
 彼人と借老の望成逐むんを誓てサ不存余一と心成定め播六之
 助も唐絹々外ハ天子將軍の御媒成有とも他の女と妻室とハせりと
 約定し別成々々不遇成恨も果ハ室町の勤仕も厭りて
 虚病成かすへ出仕成怠り夜ハ嶋原小の通ひく致蕩逸樂小のそ
 思成耽らす小多賀島香之助ハ冠冠ふり此為鉢成んく大よ心
 を困し時々風練さるるも曾て用いられざるのさびす却て

忌疎人せしめし心中向へあげ死如斯く主君弥悪徒が為小欺り此逆
 小ハ御身の大事成引りしあふ今ハ又伊織が絆へ委細の更成はげ
 主君の御身小凶事あり申すの計ひ成りしと心ひら小思し密小
 一通の書成総え其身の私要成十をそ休め毎更国絆一往反る
 飛脚小純したる然る小如何し知る久岩劉正馬被飛脚成欺死
 て多賀嶋が書状成り封し續下し大改れ小を社異し
 思し更よ此書も本國へいし我徒如何り罪名成あふ人あり
 ぐしつ小危死くわ古成吐た幾島伊次右の書成あふ小はし
 發歎し此六渠成生と更ハ大望の妨げなり讒害し患成除人と三
 人悪針成示し合せ其夜も主成勸て嶋原へ誘ひたり成又會せて伊

沢丹平播左之助が卧床小案内し入る中々ハ非礼成顧む御味席小
 推余侍事別義ふいし只他聞が憚る一義成言上仕し為小其子
 細しハ君京地御在番の勤爵成慰めおん折節斯當所へ通ひ
 あふも中々御保養の一つふ成多賀島香之助君年の身成も不顧君の
 身持放蕩奢移かりと大形小中なり随ひも某ホヤ君小橋奢と
 勸えもやん国絆から家老伊織り方告いんて斯る消息成総り
 如何仕りてや落し重成某提りり君も廊通の御遊真成今曾限
 小思止りし難者の難成避りて伴し忠實成面ふり播左之助小
 怒成幾人言巧ふりいなり香之助が書成呈しられ唐衣穿
 てたりの聲は是ハとも如何ある更の起りてさハ曰りてや守治あり

一度見へ糸くせくすりハ飾磨小漆るはあがら小意る心乃孫増玉ホ
 曾乃麻縮あきくつと際て止布丸心と侍らむと待夜ハ更行鐘成恨
 逢夜ハ明の鶏成るころ君と結び下紐成逢る近ハ解トとて他客
 小ハ難面のもお過ぬきが夜ハまがら大車ガ邪見の責折檻昼終日亡
 ハの主支婦の強意見其憂はくさも敷あむと稀乃逢瀬成頼むく
 のも三凌川竹の憂節成思念一侍らむとの成今宵くたりの勢りとハ神
 おうぬ身の思ひたや君来まきとハ何をくも憑る存命さひらふを
 た今ハ中々なれた人ふ敷くつれて埃乃世の並ぬ成待あせんとく
 と泣け側なる刀掛なる小刀搔取て何名抜くこと播左助北く其
 手成とめ是ハ物小む狂る我も誓一言の葉成反古とあてて脚

身成むやハう他人の花とと命成更小逸とて過まおせとと刀成急小も
 だくうて怒の書筋顔小頭一多賀島が消息成續より早く寸ふ引
 裂とてやあき小賢た多賀島めが拳動ふ多幸情成けくさく我
 成飽まき思落一賢まき敷度練言くまきくみ小幸仰々一因
 許へ告知せと土さる予が災害成れんと加之明輩小ゆぬ儒衣被る
 世己の忠義負せんや悪さも悪しとく手対小むて腹けてん
 汝ハ七八の王と談ト唐絹が身成賢出朱雀の別荘へ伴へ息巻荒
 く言捨て刀搔取まき成伊江急小袂成ひく脚憤ハさる更小ゆと今
 君の御手成下玉ハハ香之助が不忠成あむと益罪の政敗た国
 許へ告め君の脚為あてふの知くる童一人何程の事侍る布れ

某別小謀をもちて人なれど封景一辻切小逢一休小とてふりひん（いん）これ
 む君茂継傍仕る者いなり（いなり）もて唐綺至の身の代ハ兼て亡八の主と議一
 緒雜費とめて五百金小定め金子才覚の心構も已小なり（い）此も
 御意茂旁一玉ハ（こ）テ宵ハ緩々御止宿い下し詞巧小ヤ（ろ）るふそ播之
 助双の掌茂（ま）とと（ま）今小始ぬ汝等が働た斯のづくたれ（れ）予と何
 う念しせん（ん）れ若年たれも香之助ハ（ん）法早業力量さへ普通小超
 一曲者われむ（れ）悔（い）と不覚おせと（い）唐綺今ハ廓の餘波の枕席茂改
 て見残せり（れ）夢（ゆ）をいやと手茂携（ま）と上（ま）ハ始の歎乃色（い）と嬉一
 々小笑さく伊沢小會親あり奥の間へ誘（い）れれ伊沢仕海一（り）と
 獨笑一亡八の主小面談して身請の事茂取究め六角の座敷（を）

繪本金石煙前篇卷之二畢

